

ほっかいどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかい
北海道自主夜間中学交流会

しじょうこうりゅう
(誌上交流)



ねんがつにちせってい
2018年9月8日(設定)

ほっかいどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかいじっこういいんかい
北海道自主夜間中学交流会実行委員会

目次

1. はじめに じっこういんちよう えんどうち えこ 実行委員長 遠藤知恵子 1
2. 各自主夜間中学からの活動報告 かくじしゅやかんちゅうがく かつどうほうこく 4
 - 1) 函館遠友塾からの報告 はこだてえんゆうじゅく ほうこく だいひょう いまにしたかひと 代表 今西隆人
 - 2) 釧路くるかいからの報告 くしろ ほうこく だいひょう かねむらのぶこ 代表 賀根村伸子
 - 3) 札幌遠友塾からの報告 さっぽろえんゆうじゅく ほうこく じむきょくちょう くろさわせいいち 事務局 長 黒澤晴一
3. 各地区つくる会の活動報告 かくちく かい かつどうほうこく 11
 - 1) 旭川に公立夜間中学をつくる会 あさひかわ こうりつやかんちゅうがく かい だいひょう なかじまひろゆき 代表 中島啓幸
 - 2) 北海道に夜間中学をつくる会報告 ほっかいどう やかんちゅうがく かいほうこく きょうどうだいひょう くとうけいいち 共同代表 工藤慶一
4. 生活体験発表 せいかつたいけんはっぴょう 14
 - 札幌 さっぽろ 1) 高橋 トコ たかはし じゅこうせい (受講生)
 - 2) 斎藤 亜耶 さいとう あや じゅこうせい (受講生)
 - 3) 豊島志津子 とよしまし すこ じゅこうせい (受講生)
 - 4) 渡部 光一 わたなべ こういち (スタッフ)
 - 5) 伏見 裕子 ふしみ ゆうこ (スタッフ)
 - 釧路 くしろ 6) 吉田ヨシ子 よしだ よしこ がくしゅうしゃ (学習者)
 - 7) 長野 雅子 ながの まさこ がくしゅうしゃ (学習者)
 - 函館 はこだて 8) 須藤 君子 すどう きみこ じゅくせい (塾生)

1. はじめに

こうりゅうかいじっこういんちよう さっぽろえんゆうじゆくじしゆ やか かんちゆうがくだいひよう えんどう ち え こ
交流会実行委員長・札幌遠友塾 自主夜間中学代表 遠藤知恵子

こんかい じしゆ やか かんちゆうがくぜんどうこうりゅうかい ざんねん
今回の自主夜間中学全道交流会は、残念ながら
だいきほ ほっかいどういぶりとうぶじしん ちゆうし
大規模な「北海道胆振東部地震」によって中止となっ
てしまいました。あつまちよう かくち おお ひがい
厚真町はじめ、各地で大きな被害をもた
らした今回の地震、札幌でも地区によって被害が大き
く、とく ぜんどうてき ていでん おも
特に全道的な停電は思いもよらないことでした。



こうつうしゆだん ぜんめんてき くしろ はこだて らいさつ
交通手段が全面的にストップ、釧路や函館からの来札
がむり ぜんらんくもう すんだん けいたい じゆうでん
が無理となっただけでなく、連絡網が寸断され、携帯やスマホの充電に
あくせんくとう さっぽろしな い れんらく じたい きゅう と
悪戦苦闘、札幌市内の連絡さえままならない事態となりました。急きよ取りや
めざるを得なかった交流会連絡に大変な思いをさせられ、ひごろのそな あま
日ごろの備えの甘さを
おも し 知らされた おおじしん おおじしん ぜんご きょだいたいふう しゅうらい せいさんげんば
大地震の前には巨大台風も襲来、生産現場
にも多くの傷跡を残しています。まだ避難所暮らしの方も多いと聞きます。一日
も早く回復し、にちじょう ちど ねが
日常に戻ることを願ってやみません。

いっぽう あら はっけん みず でんき と ちいき はなし
一方、新たな発見もありました。水と電気の止まってしまった地域のお話
です。きょうふ たいけん のあと でんき き みず と
恐怖の体験のあと、電気が消え、水が止まってしまったところでは、お互い
にこえ か あ 声を掛け合い、マンション暮らしのお年寄りの水を、わかもの じょうかい せ お
若者が上階まで背負っ
てとど などなど みな たす あ やさ
届ける等々、皆が助け合う優しさにあふれていたとのことです。せいかつ ば
生活の場
でのつながりのたいせつさ じっかん
大切さを実感しました。

ところで、こうりゅうかい せいかつたいけんはっぴよう はっぴようげんこう
交流会プログラムの生活体験発表については、すでに発表原稿が
とど おも 貴重な体験をぜひ皆様に共有してい
ただきたく、こんかい しじょうこうりゅう げんこう よ
今回は誌上交流とすることにいたしました。原稿をお寄せくださ
った方がた
かたがた
ありがとうございます。

こうりゅうかい まいかい せいかつたいけんはっぴよう すうにん かた ねが
交流会では毎回、生活体験発表を数人の方をお願いしています。なんといい

でも、生の体験は、いつも私たちの心を打つもので、活動の原動力となるものでした。そして厳しい生活の中で学びの機会を見だし、ようやくたどり着いた方々の学ぶ事の喜びに満ちたその声は、学びがあるから人間的な生活が実現しているのだという「学びの原点」にたち戻らせてくれるものです。

今年も9月初めに東京で、「基礎教育保障学会」が開かれ参加してきました。この学会は、人間にとって、生活の基本となる学びの重要性と、それを実現するための様々な条件を研究することを目的とするもので、研究者だけでなく、学習者や、学習を支援するスタッフ、教育や福祉の行政に関わる人など、関連する方々が一堂に会します。生活するうえで不可欠な学びは、憲法でも保障されている人権です。公的に整えられて当然ですが、現実にはなかなかその通りにはなっていません。そんな中で、自主夜間中学は、学びの機会を得られなかった人々になんとかその機会をとやむに已まれず自らボランティアでスタートした学校です。全国から集まったその場でもやはり、困難な生活のなかで学ぶ機会にたどりついた方お二人の体験発表が人々の心を打っていました。また、何とか夜間中学を充実したいと活動している実践家（遠友塾スタッフの工藤慶一さんもそのお一人）の報告は、夜間中学づくりに携わる人々へのエールとなりました。

その学会を通して皆で確認したことは、あくまで夜間中学は、学習者が主人公である、何事を考えるにもそれに尽きる、ということでした。これは、すべての教育機関に通じることとおもいます。歴史的に必要な迫られて制度化されてきた学校も、時がたつにつれ社会が変化し、制度との間にひずみが生じ、原点が忘れられがちになります。さまざまな矛盾も表れてきます。不登校の子供を生み出しきっているのもその表れの一つではないでしょうか。

今、教育機会確保法が成立し、全ての人に基礎教育を保障しようとする時代がやってきました。しかし、学校として制度化するということは、どんなに柔軟

に^{かんが}考^ええても様^{さま}々な^{わくぐ}枠^せ組み^{てい}を設定^えせざるを得^{かなら}ず、必^{かなら}ずそこには、これらのシステ^ムムには収^{おさ}まり切^きれない人^{ひと}々が生^うみだされて来^くるでしょう。その意^い味^みで、制^{せい}度^どから漏^もれてしま^ひった人^{ひと}のこ^{かんが}とを考^ええていくことは「教^{きょう}育^{いく}の原^{げん}点^{てん}」を見^みつめな^おすこ^とにもな^いりますし、今^{いま}私^{わたし}達^{たち}が^{おこな}行^いっているよ^{がく}うな^{しゅう}学^{しゅう}習^{しゅう}者^{しゃ}に^よそ^そり添^じった^や自^じ主^{しゅ}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}の^{そんざい}存^な在^なも^{おも}無^なくす^{おも}わ^いけには^いか^ないと思^{おも}って^いま^す。

今^{ことし}年^{ねん}は、札^{さつ}幌^ぼ遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく}が^{ねん}ス^はタ^こー^くト^しして2^は9^こ年^{ねん}、函^{はこ}館^{だて}、釧^{くし}路^ろの^や夜^{かん}間^{ちゅう}中^{がく}学^がス^ター^トして1^{ねん}0^{ねん}年^{ねん}、に^ちな^いります。そ^ちれ^いぞ^きれ^の地^ち域^きで、そ^かた^ちぞ^とれ^の形^かで^と取^とり^く組^みが^つづ^つけ^られ^てき^まし^た。た^だ、ま^まだ^まだ^ま学^まび^もを^かた^がた^た求^おめ^おる^も方^お々^もは^お多^おく^おら^れる^もと思^{おも}い^ます。こ^{こう}の^{りゅう}交^{かい}流^{きろく}会^き記^き録^{ろく}は^{たい}そ^れぞ^れの^{たい}体^{けん}験^きを^{きょう}共^{ゆう}有^{ゆう}す^るこ^とに^よつ^て、よ^あり^あた^た暖^ぬか^な人^{ひと}の^つな^がり^も生^うみ^だす^でし^{ょう}し、^まな^も学^まび^もを^かた^がた^た求^おめ^おる^も人^{ひと}た^ちに、こ^{この}よ^うな^あた^た暖^ぬか^なな^ば場^ばが^ある^こと^を発^はっ^{しん}信^{しん}す^るこ^とに^もつ^なが^ると思^{おも}い^ます。



2. 各自夜間中学からの活動報告

1) 「函館遠友塾について」

だいひょう 代表
いまにしだかひと 今西隆人

はじめに函館遠友塾についての概要をお話します。昨年この場でもお話したように昨年より2学年体制となっています。今年の春、8名の新生を迎えました。聴講生（卒業しても引き続き学習する方）を含め、1年生27名、3年生22名、計49名の方が学習しています。



性別では男女比は1対9、年代は20代1名、30・40代2名、50～70代が8割ほどです。最高齢は開塾以来10年目となる86歳の女性が元気で通われています。塾生の平均年齢は60代後半でしょうか。

スタッフは30名で、スタッフの平均年齢もおおよそ塾生と差がなくなっています。塾生の9割の方が高校を卒業されていて、戦後70年以上を経過した今、戦中・戦後の混乱で義務教育を受けることができなかった方はほんの一握りとなりました。

学習は週1回1日2コマ、国・数・社・理・英の5教科を学びます。国・数・英の時間を多く設定し、理科・社会は1時間完結型の授業内容です。

会場は、函館駅から徒歩10分ほどの函館市社会福祉総合センターです。ボランティア団体に登録していますので、会場使用料が無料となり、塾の運営に大変助かっています。費用の面では塾生からは年間3千円を徴収し、プリント作成や行事の補助などに利用しています。行事は入学式、春の遠足、秋の遠足、クリスマス・忘年会、卒業式、卒業を祝う会を実施しています。今年の春の遠足は函館市議会、日本銀行函館支店の見学、五島軒での食事でした。

いじょうはこだてえんゆうじゅく がいよう はなし つぎ わか せだい ふたり そつぎょうせい
以上函館遠友塾の概要をお話しましたが、次に若い世代の二人の卒業生に
ついてお話をします。

ひとりめ だんせい あい かれ ちゅうがっこう ときふとうこう ていじせいこうこう しんがく
一人目は男性のIさんです。彼は中学校の時不登校となり、定時制高校に進学
しましたが、そこでも不登校となり休学状態となっていました。親戚の方が
えんゆうじゅく がくしゅう なかばごういん えんゆうじゅく つ
遠友塾で学習することとなり、半ば強引に遠友塾に連れていかれるようにな
りましたが、えんゆうじゅく ふんいき ねんばい かた せつぎよくてき
遠友塾の雰囲気や年齢の方がほとんどということもあり積極的・
じしゆてき がくしゅう けっせき たいちようふりよう ど
自主的に学習するようになりました。欠席も体調不良による1度きりでした。

えんゆうじゅくそつぎょうご きゅうがく ていじせいこうこう ふくがく ごこうこう
遠友塾卒業後は休学していた定時制高校に復学し、その後高校にはなんと
かいきん ことし ふじそつぎょう いぜん きほう くるまかんけい
皆勤で、今年3月無事卒業しました。4月に以前からの希望であった車関係の
かいしゃ しゅうしょく いまげんき
会社に就職し、今元気で暮らしています。

ふたりめ じょせい けい かのじょ ちゅうがっこう ねんせいじ はこだて てんこう
二人目は女性のKさんです。彼女も中学校1年生時に函館に転校してから
ふとうこう えんゆうじゅく ちゅう こうはん はい げんえき ちゅうがくせい
不登校となり、遠友塾には中2の後半に入りました。現役の中学生であるこ
とと、やかん がくしゅう きたく くら じかんだい う い
と、夜間の学習で帰宅が暗くなる時間帯であることから、受け入れについて
スタッフでぎろん ぎろん ほごしゅ そうげい じょうけん う い
議論しましたが、保護者の送迎を条件に受け入れることにしました。

さいしょ はな した む じょうたい じしん ようす
最初は話すときにも下を向いたままの状態、とても自信なさげな様子でし
た。しかし、えんゆうじゅく やす かよ したい ひょうじょう あか まわ
た。しかし、遠友塾には休むことなく通い、次第に表情も明るくなり周りの
おばあちゃんとも会話を交わすようになりました。えんゆうじゅく そつぎょうしき みな まえ
遠友塾の卒業式では皆の前
でどうどう おお はくしゅ かんどうてき
堂々とスピーチし、大きな拍手をもらったシーンは感動的でした。

こうこう ぜんりょうせい がっこう すす はげ こうこうそうたい ほっかいどうだいひょう
高校は全寮制の学校に進みスポーツにも励み、高校総体の北海道代表にもな
りました。ことし 3月 3月 ふじそつぎょう しんろ ほうこく き なんかん
今年3月に無事卒業し、進路の報告に来てくれましたが、難関の
かいじょうじえいたい にゅうたい いまよこはま けんしゅうせい がんば
海上自衛隊に入隊し、今横浜で研修生として頑張っています。

ねんばい かた たい まな なお しえん やかんちゅうがく じゅうよう
年齢の方に対する学び直しを支援することはもちろん夜間中学の重要な
やくわり ふとうこう けいけん ふただ まな おち じゃくねんそう かた たい
役割ですが、不登校を経験しながらも、再び学びたいと思う若年層の方に対す
る支援の場としての意義を改めて感じたこの春でした。

2) 釧路自主夜間中学「くるかい」2017年度活動報告

代表 賀根村伸子

こんにちは、賀根村です。この度の交流会が地震の影響で中止になった事は、とてもとても残念ですが、災害に遭われ犠牲になられた方がいらっしゃいましたので、心からお見舞い申し上げます。準備にご苦労された札幌の皆様は、本当にお疲れ様でした。



釧路の「くるかい」は2009年に始まり、今年で10年目の活動です。もうこんなに来たと驚きますが、ゆっくり思い返せば様々な事柄が思い出されます。今年は少し当時を思い起こし、私たちのくるかがどんな思いがあり、どう出来上がったのか、そして何を自指して来たのか、地域にどんな役割を果たしてきたかなど、今いる皆で、またこれまで関わってくれた方々も交えて、再確認できたらとの思いから、講演会を企画いたしました。そこで講師に元事務局長の添田祥史氏を福岡大学からお招きしました。「くるかい」が出来たのは、添田氏の思いがあったからです。数年前に釧路を離れていきましたが、添田氏にとっては、「くるかい」は我が子の様なものではないでしょうか。今回、学習会を見て頂く時間はありませんでしたが、懐かしい顔ぶれの元スタッフとも交わりの時を持てましたので、当時を思い起こして頂けたことと思います。誰かを想う思いは必ず繋がる、その事を添田氏は教えてくれました。

講演では具体的に、あの当時釧路にも義務教育未修了者が相当数にかなりいらした事、どんな準備をしてくるかいが始まったのか、その当時繋がった機関が多くあった事などを紹介しながら、また、亡くなられましたが、身寄りのない方で、一生懸命学んでおられた学習者さんの事をよく覚えておられ、その方の生きた証とも言える文集を読んで下さいました。また、くるかいを卒業して

いった当時不登校だった10代の方が、周りを驚かすような成長を遂げ、その陰にあった温かい学生スタッフとの交流があったことなど、学びが知識だけではなく、人生に大きくプラスに働くのだと参加者に教えて下さいました。この記念講演会の後半は、元スタッフとのリレートークとしましたが、スタッフも開校当時、苦心した事もたくさんありましたが、大きな感動を常に与えてくれる学習者さんは、そんな苦勞を吹き飛ばしてくれました。それどころか、私たちがスタッフは、かけがえのないものを頂いているようにさえ感じています。今後その事もたくさん共有できれば、もっと外にも「くるかい」の素晴らしさを発信できるのではないかと思います。

昨年度の活動をお話ししますと、学習会は36回行いました。昨年は中学生が事情を抱え、のべ6名程通って来ました。不登校気味の子たちですが、それぞれに目標を持っていたので、とても頼もしさを感じました。

それから国語のグループが一つ増えて、休憩時間に折り紙を折ったり、世代を超えて楽しんでいました。平均年齢がスタッフ共々アップして、体と相談しながらの勉強会となっております。私も昨年の交流会の後、もう1度眼の手術をしています。今は何とか運転も出来ていますが、他の方々も視力の衰え、体力の衰えと皆闘っていると思います。7月にはバス遠足がありました。まず釧路湿原の温根内ビジターセンターの見学と遊歩道を歩きました。学生スタッフのYさんが昆虫や植物に詳しく、釧路湿原の事から蜘蛛の様子まで、丁寧に説明してくれて、知らない事を沢山知った1日でした。その後動物園でかわいい動物たちを眺め、一緒にお昼を頂きました。スタッフのOさんの家庭菜園（自然栽培法）も見学させて頂き、無農薬無肥料での栽培の特徴など伺いました。

9月の特別授業では、久しぶりに「ふまねっと運動」で自分の体のバランスを鍛え、歌いながらの楽しい時間でした。11月の特別授業では、鶴居のネイチャーガイド安藤誠さんにお問い合わせ出来た事、望外の幸せでした。自然がいかに私

たちと繋がっているのか、普段なかなか足を踏み入れる事の出来ない場所で写った、湿原の奥地での美しいタンチョウや勇ましいワシ、また至近距離で撮影したキツネのまなざし、クマの兄弟の戯れている瞬間など、スライドで見せて下さいました。撮影に成功した内輪話なども披露して頂き、何とも感激した時間でした。自然の感じ方が変わった事だろうと思います。

秋の運動会、恒例のクリスマス会・忘年会などで楽しい交流、春の修了式と送別会では、頑張ってきた1年の慰労も含め、和やかなひとときで、次年度への意欲も確認出来ました。こうして、1年が無事終了しました。これで、くるかいの報告を終わらせて頂きます。有難うございました。

3) 札幌遠友塾からの報告

事務局 長

黒澤晴一

みなさん、こんにちは、札幌遠友塾の黒澤晴一です。今年の4月から事務局 長を担当しております。昨年9月9日に実施されました北海道自主夜間中学交流会以降の歩みについて、写真をまじえながらお話しいたします。



昨年9月27日は特別授業でした(写真①②)。フラ

ンスの伝統的な音楽「パル・ミュゼット」の楽団「ラ・ゾーナ」によるミニコンサートでした。アコーディオン、バンジョー、ピアノなどによるすばらしい演奏



①



②

でした。またこのときアコーディオンが50台ほど用意され、実際に受講生さんがアコーディオンを演奏するという体験もできました。「生まれて初めてアコーディオンにさわった」と感激している方もおりました。10月8日は「社会科見学」を実施しました（写真③）。北海道博物館を訪ね、北海道の歴史、自然を学習することができました。チャンネル式の古いテレビや、手でローラーを回してしぼる洗濯機など、懐かしいものがたくさんありました。



③

12月20日、クラス発表・忘年会でした（写真④）。各クラスとも凝った出し物があり、驚きや、ユーモア、笑いもあり大きな喝采を浴びていました。ハンドベルの澄んだ美しい音が今でも耳に残っています。



④

そして3月14日、卒業式、修了式でした（写真⑤）。26期生5名が卒業し、卒業生総数が392名となりました。誇らしい姿の笑顔が印象的でした。



⑤

4月11日、入学式、20名の方が入学しました（写真⑥）。今は1年生が23名となっております。病院の相談員の方にご相談し、参加された方もおります。



⑥



⑦

毎週「はじめの会」での歌声で始まり、いろいろな話を聞いたりしてから授業に入ります（写真⑦）。

1年生の方々は授業が開始されたころは緊張していたようですが、今では黒板に出て

もんだい と はな あ しつもん せつきよくてき
問題を解いたり、話し合ったり、質問したりと積極的
と く
に取り組めるようになっていきます。

じゆぎょうふうけい しょうかい つか すうがく
授業風景を紹介いたします。タイルを使った数学の

じゆぎょう しゃしん しゃかいおきなわちほう じゆぎょう さんしん
授業です(写真⑧) 社会科沖縄地方の授業では三線
がつき しょうかい しゃしん りか とくべつ
という楽器を紹介しています(写真⑨)。理科の特別

じゆぎょう にぼ かいぼう たの おこな
授業では「煮干し」の解剖が楽しく行われました
しゃしん かいぼうご にぼ おい た
(写真⑩)。解剖後に煮干しを美味しく食べてい

かた こくご まいじかん し ろうどく はじ
る方もおりました。国語では毎時間、詩の朗読から始
まります(写真⑪)。漢字の練習のお土産(宿題)

ねっしん と く かた たくさん
を熱心に取り組んでいる方が沢山あります。

ことし しゆざい う どほうえい
今年、テレビの取材を受け、2度放映されました

しゃしん がつ にちほっかいどう せいさく
(写真⑫⑬⑭)。3月15日北海道テレビ制作「ザ・

ドキュメンタリー<学ぶこと 生きること
えんゆうじゆく ひとびと がつ にち せいさく
遠友塾の人々>と、6月13日NHK制作、ひるナ

マトークの番組で「絵本作家そらさん、ライラックの
え まな わ さつぼろえんゆうじゆく えんゆうじゆく
絵がつなぐ学びの輪～札幌遠友塾」でした。遠友塾

し いただ おお けいき
のことを知って頂く大きな契機となりました。

こんご じゆぎょう しゃかいかけんがく こうりょうちゅうがっこう
今後は授業のほか社会科見学、向陵中学校

ぶんかさい さくひんはつびよう げんがく じゅうそう かんしやう とくべつ
文化祭での作品発表、弦楽4重奏を鑑賞する特別

じゆぎょうとう そつぎやうしき よてい
授業等が卒業式まで予定されています。

お いま ぐたいてき いちばん ねが
終わりに、今、具体的な一番の願いは、エレベータ

せつち
ーが設置されることです。

いちにち はや せつち おお かた ねが
一日でも早く設置されることを多くの方が願って
います。

いじやう さつぼろえんゆうじゆく かつどうほうこく
以上で札幌遠友塾の活動報告といたします。ありがとうございました。



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭

3. 各夜間中学をつくる会の活動報告

1) 旭川に公立夜間中学をつくる会

だいひょう なかしまひろゆき
代表 中島啓幸

いま ねんまえ えいが がっこう げきじょう かい
今から 25年前の映画「学校」(注①)を劇場で 8回
観たのがきっかけでした。

ちゅうがくじだい にんきもの まえ か もの
中学時代のクラスの人気者から「お前は変わり者」に
てんらく ぼく はいいろ はいいろ め か こ
転落した僕には、灰色のいじめ抜かれた過去(クラス
ぜんいん むし いんしつ いや とうじ
全員無視と陰湿な嫌がらせ)があり、まったく当時の
せんせい たす
先生が助けてくれなかったことが、灰色の余韻として、

いづも こころ ふか
いつも心の深いところにあり、この映画で夜間中学のぬくもりに触れ、ぜった
いと きべつ
い人を差別しない「めだかの学校」のように、誰が生徒か先生かわからない対等
かんけい がっこう なみだ と
な関係でいられる学校があるということに涙が止まらなかった。

しゅじんこう にん かんどう たよ にん
主人公のモデルには 3人おられ、その感動からペンをとりお便りし 3人とも
へんじ ま いちばんていねい へんじ けんじょうせんせい
お返事を待ったが…、一番丁寧にお返事をいただいたのが見城先生(注②)だ
った。その後、文通がご縁で「橋のない川」の住井すゑさんや寅さんのそくせき たす
ねる二人旅をしたり、昨年6月には三浦綾子さんのしょうせつ しおかりとうげ げんば こうえん
と対談をお願いしていく中で、見城先生の体のしんからあったかいお人柄に触
れ、ふつつとあさひかわ こうりつ やかんちゅうがく おも
れ、ふつつと旭川にも公立の夜間中学ができればいいなという思いから、「い
や、いじめのない差別のない学校がなきゃこの世は息苦しい」と奮い立ち、あさひかわ
しちょう じょうねつ なんと ひつようせい しりょう じさん じきそ
市長に情熱で何度も必要性を、資料を持参して直訴してきた。

ことし がつ ぜんもんぶかがくしょうじ むじかん まえかわきへい こうえん
そして今年の 2月、前文部科学省事務次官の前川喜平さんによる講演から、
あさひかわ こうりつ やかんちゅうがく かい た あ がつ けんじょうせんせい しゃしんてん
「旭川に公立夜間中学をつくる会」を立ち上げた。7月には見城先生の写真展
かいさい
を開催した。これからは、12月に「いわさきちひろ」さんの心友で弁護士の平山
ともこ こうえん せんそう はんたい ひと ねん がつ あか
知子さんによる講演「いのちをかけて戦争に反対した人」、2019年3月には赤



ひげ医師の方波見康雄さんと下田憲さんによる対談「いのちが深く出逢うとき」、
6月には夜間中学映画祭・前川喜平さんと見城先生の対談と続く。

毎回、わずかな友人と私財を投じてなんとかやっていますので応援をどうぞ
よろしくお願いいたします！

注①：映画「学校」

1993年に夜間中学をモデルにした映画。監督は山田洋二。主演は西田敏行、他に田中邦衛、竹下景子出演。1994年映画の日本アカデミー賞でグランプリ受賞。



注②：見城慶和氏

1937年生まれ。1961年から東京都の夜間中学で42年間勤務。夜間中学に関する本の出版や活動をする。1999年に「吉川英二文化賞」を受賞。現在、「鉛筆の会」を運営。2017年に「北海道に夜間中学をつくる会」研修会において講演。



2) 北海道に夜間中学をつくる会

きょうどうだいひょう く どうけいち
共同代表 工藤慶一

みなさん今日は。一昨年の交流会で私は「教育機会
確保法（案）」という、まだ成立していなかった法律の
話しをしました。去年は国会でこの法律が成立した
とお伝えしました。その内容は、年齢・国籍その他の
事情にかかわらず、みな学ぶことができるよう国も
地方自治体も責任をもって実施するというものでし
た。これは日本国憲法第26条にある「すべて国民は、法律の定めるところによ
り、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」という文の中の
「法律の定め」の法律ができたことを意味しています。



また教育の機会を確保するために文部科学大臣は基本的な指針を定めると
も書いています。この指針が去年の3月31日に発表され、全ての都道府県に少
なくとも一つは夜間中学等が設置されるよう推進するとし、更に自主夜間中学
に係る取組では、「ボランティア等により自主的に行なわれているいわゆる自主
夜間中学についても、義務教育を卒業していない者等に対する重要な学びの
場となっており、各地方公共団体において、地域の实情に応じて適切な措置が
検討されるよう促す。」としています。

ではこの「適切な処置」とは具体的に何なのでしょう。8月24日に札幌市
教育委員会と私たちは話し合いを行い、いくつか「適切な処置」と思われるお
願いをしました。公立夜間中学校の設置宣言の時期を教えてください（前向きに
進んでいる）、向陵中学にエレベーターを設置してほしい（順にやっているの
で今直ぐにはむずかしい）、教育機会確保法等の教員研修を実施してほしい
（研修の中に入れ込む）などです。最後に、遠友塾が向陵中学校を使わせて
いただいている法的な根拠は「行政財産目的外使用」の許可ということになっ

ていますが、私たちは「教育機会確保法と基本指針」から「行政財産目的使用」になるのではないかと主張しました。返事は、いずれそうなるであろうが今はこれしかないとの返事でした。これからも話し合いを継続していきます。

また教育機会確保法に書かれている夜間中学等に関する協議会については、道と札幌市、学識経験者、中学と高校の校長会代表、PTA代表、フリースクール代表、札幌遠友塾代表が入り、過去3回開かれております。第3回目の協議会で、私たちは「あるべき公立夜間中学校」について詳しい提言を行ないました。自主夜間中学であり続ける遠友塾の立場から、公立夜間中学が開設された後も、提言に沿っているか離れているかを考え、提案を続けたいと思います。

来年はどんなご報告ができるでしょうか。今から楽しみにして置いて下さい。

4. 生活体験発表

1) 札幌遠友塾 高橋トコ (受講生)



19歳の失敗 高橋トコ

青森から札幌の病院につとめた時初めてエレベーターに

乗りました。

どうやって乗ったらいいのか

わからないので

ノックした。

それでも開かないので

キョロキョロあたりを見まわしたが

誰もいなかった。

「アレー」エレベーターだから

ノックしなくてもいいんだと

気がついた。

目の前のボタンを押してみた。

ドアがさーっと開いて

無事に乗れ

「ありがとう」と

言ってお降りた。

わたしの仕事

高橋 トコ

英文科の秘書と、

日本語の秘書のところ

書類を持っていくのが

わたしの仕事だった。

だから、「ありがとう」「すみません」という言葉を

いつも言っていました。

62年間

わたしは「ありがとう」「すみません」と

言いつづけたので

頭から離れません。

銀行へ行った時

緊張して思わず

「婦長さん これどうするんですか」と

言つてしまい

銀行の受付の人は

あわてて大きな声で

「わたしは婦長さんじゃありません。

私はそんな立派な人じゃありません」と
体全体で言いました。

無口お父さん 高橋 トコ

あなたは素敵な人でしたね

美男子で

無口でしたね

私が「いつてらっしゃい！」と言うと

「うん うん」と出かけて行った

あなたは素敵な人でしたね

私が料理学校で

習ったマーボ豆腐を

作つて出すと

「あーいい味だね」と

にっこり笑ったお父さん

でも、とっても怖いお父さんでした

2) 札幌遠友塾

さいとう あ や じゅこうせい
斎藤亜耶 (受講生)



わたしは、小学校2年生から学校を休みがちになり、3年生にあがる頃にはほとんど学校に行かなくなりました。小さい頃の私は大勢の中にいるのが苦手で、人と関わるのが怖く家に引きこもる生活をしていました。

中学校は入学式に行ったきり3年間まったく行けませんでした。その後、不登校の生徒の受け入れをしている高校に進学しました。しかし、学校に行っていなかった分の勉強が抜け落ちた状態のため、高校の勉強はよくわからないまま授業についていくのがやっとでした。テストの時は答えを丸暗記するしかなかったので、数学は特になぜそうなるのか理解できないままでした。

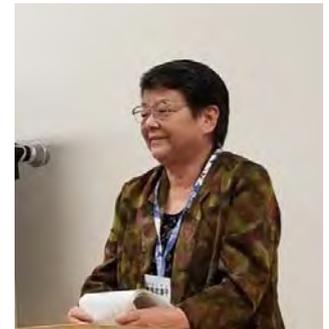
社会人になってから数学が出来なくて困ることが多く、会社の数字がいっぱい並んでいる資料が読めず「前年比は？」とか「進捗率何%？」など聞かれて大変困りました。またある時は、計算ミスでさばききれない程の商品を大量に発注してしまったり…。これでは駄目だと思い、近所の公文に通ってみるのですが、小学生から不思議な目で見られ、迎えに来た保護者は困惑気味だったので、居たたまれず通うのを断念しました。それでもどこか大人でも勉強をやり直せる場所はないか探している時に遠友塾を見付けました。

見付けてから見学を申し込むまで悩みました。建物も中学校の教室ということで、また私は場違いなのではないか、私みたいな人が行っても良いのだろうか、など色々考えました。いざ、見学に行くと皆さん優しく接してくれて、ここに居てもいいんだと思えて安心したのを覚えています。隣の席の鈴木さんは優しくいつも親切にしてくれます。後ろの席の佐藤さんは面白い冗談を言って鈴木さんや私を笑わせてくれます。

えんゆうじゆく き かんがいぶか がっこう い せんそう い かのた
遠友塾に来て感慨深かったのは、学校に行きたくても戦争で行けなかった方
や、べんきよう はたら かな かのた
勉強がしたくても働かなくてはいけなくて、それが叶わなかった方がいる
こと し どうじ わたし がっこう くる みずか い
事を知り、当時の私にとって学校というものは苦しいものだったので自ら行か
ないというせんたく をしましたが、せんたくし がっこう い いか
ないという選択をしましたが、選択肢すらなく学校に行きたくとも行けなかつ
た時代があったという事、そしてそのけいけん かのたたち き も ちやくせつ き
た時代があったという事、そしてその経験した方達の気持ちを直接聞くことが
でき こと えんゆうじゆく べんきよう たの じゆぎよう だっせん こと
出来た事です。遠友塾での勉強は楽しく、たまに授業が脱線する事もありま
すが（わらい） それも たの
す（笑）それも楽しいです。

べんきよう て き いま さまざま がっこう い ひと
もっと勉強が出来るようになったら、今も様々な理由で学校に行けない人や、
べんきよう なお ひと ちから
勉強をやり直したい人の力になりたいです。

3) 札幌遠友塾 豊島志津子（受講生）



わたし じんせい 「私の人生」

わたし うりゆうぐんほくりゆうちょう のうか こにんきょうだい ちょうじよ
私は雨竜郡北竜町の農家の五人兄弟の長女とし
う え あに にんいもうと ひとり
て生まれ、上は兄が3人 妹が1人です。

わたし しょうがっこう ねんせい ころ ちち ちじん こうじよう すながわ ひっこ
私が小学校1年生の頃、父は知人とウドン工場をするために砂川に引越し
てきました。しかしすぐにウドン工場もつぶれて、今度はアンコ屋を始めたの
です。わたし しょうがっこう ねんせいくらい とき さきん ぼ いえ で い
ですが私が小学校4年生位の時、砂金掘りがしたいとフラッと家を出て行き
ました。それから何日かして夜中の1時頃、窓の外からコンコンコンという音で
め さ みて、なん おと しょうじ やぶ あな のぞ み
目が覚めて、何の音だろうと障子の破れ穴から覗いて見ると、そこにいたのは
は は は ちち ゆくえ れいばいし うらな ばしょ ほか い
母でした。母は父の行方を霊媒師に占ってもらおうと、その場所から他に行かな
いようによなか じ ころちち はきもの ごすんくぎ う い
いように夜中の1時頃父の履物に五寸釘を打つように言われたそうです。しば
らく は は ちち そうり まいばんくぎ う ちち
らく母は父のゴム草履に毎晩釘を打っていました。そのおかげか父はまもなく

かえ 帰ってきました。ちち かえ 父が帰ってきててもいえ ます 家は貧しかったです。わたくし ちゅうがく ねん おわ 私が中学1年の終り頃父は知人の借金しょうちち ちじん しゃっきんの保証人ほしょうにんになり逃げられてしまいました。

そんなある日、父は手形てがたを落せず多額たがくの借金しゃっきんと母ははと5人にんの子供こどもを残のこして真夜中まよなかになっても帰かえってきませんでした。2月がつの寒い夜さむ よるでした。母ははと私わたしは駅えきにでも座すわってないかと探さがしにいきましたが、そこには誰だれもいませんでした。それからは学校がっこうに行くと「お父とうさん家出いえでしたんだって？」とか「お父とうさん帰かえってきた？」とかクラスがっこうのみんなに言いわれながら学校がっこうに行いっていました。家いえに帰かえると毎日まいにち借金しゃっきん取りとりが来きていました。辛つらいとかな悲かなしいとかの感情かんじょうもなく学校がっこうに行いっていましたが、中学ちゅうがくの頃ころの記憶きおくがスッポリぬけて何なにも思おもい出だせません。中学ちゅうがくを卒業そつぎょうして3年ねん位くらい地元じもとで仕事しごとをしていましたが、母ははとちょっとしたいさかいをして横道よこみちにそれいてしまい、家出いえでをして札幌さっぽろに出でてきました。母ははの人生じんせいは苦勞くろうばかりだったと今いまは後悔こうかいしています。

札幌さっぽろで主人しゅじんと一緒にいっしょになり色々いろいろ有あってその暮くらしは楽らくでは有ありませんでした。とよひらがわ 豊平川ごがんこうじの護岸しごと工事しごととかいろいろな仕事しごとをしましたが、30代後半だいこうはんくらい位くらいに私わたしは建設けんせつ現場げんばの仕事しごとをするようになりました。これは私わたしの天性てんせいの仕事しごとだと思おもいました。ゴンドラのに乗り、足場あしばに登のぼったり男おとこの人ひとに負まけない位くらい働はたらきました。大きな建物おお たてものでは徳洲会病院とくしゅうかいびょういん、競馬場けいばじょう、苗穂刑務所なえほけいむしょとうとうかぞ等々なにかん数えきれません。36年間さい73才なかの半ばまで人ひとに恵めぐまれて本ほん当とうに楽はたらしく働はたらきました。ノラ猫ねこ二匹にひき拾ひろい世話せわのため仕事しごとを辞やめました。

毎日まいにちが淋さみしく張はりのない生活せいかつをしている時とき子供達こどもたちが遠友塾えんゆうじゅくの事ことをテレビでみ見て電話番号でんわばんごうを控ひかえておいてくれました。次つぎの日ひ早速さつそく電話でんわをしました。見学けんがくに来くるようにと言いって頂いただき2回かい位くらい見学けんがくさせてもらいそして遠友塾えんゆうじゅくに入いれてもらいました。遠友塾えんゆうじゅくの先生達せんせいたちはどうしたら分わかってもらえるかと家いえに帰かえって教材きょうざいをいっぱい作つくって教おしえてくれます。何なんでも相談そうだん出来る先生せんせいがいます。暑い日あつ ひも寒い日さむ ひもお世話せわしてくれるスタッフかたの方がいます。そしてこんながさつな私わたしにも笑わら

って付き合ってくれる友が出来ました。私は今が中学の頃だと心に思いながら楽しく通っています。先生、スタッフのみなさん、友達、クラスの皆さん、言葉では表せない感謝と思い出をいっぱい持って、これからの人生頑張っていると思っています。

ちなみに行方不明の父は十年たってお骨で帰ってきました。

4) 札幌遠友塾 渡部光一（スタッフ）

「夜間中学に関わって」（2018/9/8）

皆さんこんばんは。渡部光一と申します。私は秋田県出身です。秋田県と聞いて、最近思い出すことは何ですか？（そうですね、103年ぶりに秋田県の金足農業が甲子園の決勝に進んだことですね）。今年が100回大会なのに、103年ぶりの快挙ってどういう事って思っていました。なのでインターネットの「ヤホー(yahoo)」で検索してみました。あ、「ヤフー」だった(笑)。そしたら1942～45年まで太平洋戦争の影響で3年間、甲子園大会が開催中止になっていたんですよ。こんな所にも戦争の影響がある事を、いまさら知りました。また金足農業高校を破った大阪桐蔭高校がどんなものか知るべく、明後日、大阪に調査に行ってきます。

でも今は「敵地調査する」なんて言ってますが、これまでは自分にとっての敵とか、自分とは違う人を避けて生きてきました。よくケンカや対立をしてました。

そんな私が授業中に受講生さんのお隣にいて感じるのは、先生役のスタッフさんが一生懸命説明しているときに限って、とてもためになるお話を



れることです。

例えば、憲法の話をしている時に、大多数の方が憲法に対して比較的賛成の立場をとる中で、先日98歳になったおばあちゃんが、「戦争がダメとかじゃないんだ。戦争に負けたから戦争放棄とか言えるだけで、戦争に勝ってたら憲法で平和が大事だなんて言わないだろう」と。周りは一斉授業なので、話がどんどん進んでいきました。授業の流れに乗れなくて、普段はあんまり全体の前で発表しない方です。とても貴重な意見でしたので、代わりに発表させていただきました。

また他のおばあちゃん（ここではお姉さんとお呼びしておきましょう）は、授業中に世間話を楽しそうにしています。授業には関係ないし、普通だったら騒音として扱われるものです。でもそんな授業に関係ない話をしてる時がとてもしようです。一見関係のない「世間話」の中に潜んでる、声にならない声と言いますか、まだ心に閉まったままの本当に言いたい事とか考えてる事に耳を傾けてみるのが夜間中学での最近の目標です。

プライベートの方では、自分のおばあちゃんとパプアニューギニアに行く事です。パプアニューギニアは日本からずっと南に行くと、オーストラリアの手前にある国です。そこではあちゃんのお兄さんが戦争で亡くなりました。私が幼い頃から、ばあちゃんはよく「ばあのお兄さんは戦争で亡くなったの。兄さんが戦争行くから見送るときに、親が「せっかく立派に育てたのになあ」って泣いてる後ろ姿見てた」って言って泣くんですよ。幼い私には何の事やら分かりませんでした。教科書には「日本軍が侵略した」とか「虐殺」したとか書いてないんですから。でも夜間中学に関わるようになって、戦争というものが自分が生まれるずっと前の、私には直接関係ない事なのに、他人事だとは到底思えなくなりました。

なぜなら、ばあちゃんと同じ時代を生きた受講生さんの戦争の体験や記憶が

夜間中学という場所に積み重なって、その記憶が夜間中学をつくっている事
を実感できたからです。たくさんの受講生さんの存在と、その記憶や経験を
大事に守ってきたスタッフさんが、遠い昔のばあちゃんと、現在に生きる私
をつなげてくれました。

これからも、戦争で得た利益や恩恵を受けて今を生きている事実から逃げ
ず、これから人間としてどう生きていこうか、どんな社会にしていこうか、
夜間中学で迷いながら葛藤させて下さい。これからもよろしくお願ひいたし
ます。

5) 札幌遠友塾 伏見裕子（スタッフ）

「私のこと」

この遠友塾でのスタッフとしての活動ももう少して
10年を数えるところでした。ですがスタッフとして
活動し始める前の私は、受講生でした。



入学した当時の私を知る人が言うには「怖い顔をしていて話しかけれな
かった」

卒業した後しか知らない人が言うには「何の苦勞も知らなさそうな笑顔を
してる」

これが私の三年間の変化です。

良い出会いをしました。

私の出会いのベースは三つ。

インターネットと、^{つうしんせいこうこう}通信制高校と、そして、ここ、^{えんゆうじゅく}遠友塾です。

^{えんゆうじゅく}遠友塾に^{にゅうがく}入学した^{とうじ}当時、^{わたし}私は^{さい}22歳でした。

^{ふとうこう}不登校から^ひ引きこもりを^{こじ}拗らせていて、^{しゃかいふてきごうしゃ}社会不適合者として^い生きていました。

いまでも、^{しゃかいふてきごう}社会不適合の^{がわ}側として^い生きています^{おも}と思います。

ただ、この^{ことば}言葉を使^{つか}っていても^{じぶん}自分も、そしてやはり^{いま}今の^{しゃかい}社会に^{ふてきごう}不適合を^{おこ}起こしている^{たにん}他人も、^{おとし}貶める^{いと}意図は^あありません。

ただの、^{じじつ}事実としての^{ことば}言葉です。^{てきごうふぜん}適合不全を^{おこ}起こしている。

だから、^{わたし}私は^{えんゆうじゅく}遠友塾に^き来^まました。

^{とうじ}当時、^{ぜったいてき}絶対的な^{あつりょく}圧力の^{がっこう}あった^{しゃかい}学校という^{ふてきごう}社会に^お不適合を^{おこ}起こしたから。^ひ引きこもりや^{じょうたい}ニートという^{ふりょうひん}状態、^ふ不良品。

ずっと^い生きて^おいる^めことに^{かん}負^いい^め目^{かん}を感じ^いて^{いま}いまも^{かん}感じ^いて^{いま}います。

^{えんゆうじゅく}遠友塾に^き来た^{とうしょ}当初の^{わたし}私は、^{きんちょう}めちゃくちゃに^{きんちょう}緊張^ししていた^{きんちょう}のですが、^{きんちょう}緊張^ししすぎて^{じかく}いてその^し自覚^しがありません^{こわ}でした。そして^{かお}知ら^{こわ}ずに^{かお}怖い^{かお}顔^をして^いた^そう^です。

^の乗り^こ越^ええる^こことが^{でき}出来^たのは、^{わたし}私^のの^きお^い気^いに入^り、^いにな^って^くれ^た^スタ^フフ^のの^おか^げが^です。

スタッフの^{かたがた}方^々は、^{じゅこうせい}受講生^だった^{わたし}私^に、^わ分^け隔^てなく^{せつ}接^して^くれ^まし^た。

^{だれ}誰^もも^がみ^な優^しか^った^です。

それでもやはり、^{はな}話^しか^けや^すい^ひと、^{はな}ちょ^っと^{はな}話^しか^ける^のに^{ゆう}勇^気が^{ひつ}必要^でな^かな^かで^きな^いひ^と、^す素^な直^な言^ばが^い言^える^あ相^あ手[、]ちょ^っと^か肩^かに^ち力^ちの^{はい}入^る問^{もん}答^{どう}しか^あい^てでき^なく^なる^あ相^あ手[。]い^ろろ^ろあ^りま^した。

スタッフの側がわになってからは、出来るだけ態度たいどや接し方せつ かたに関しては等しく、とおもっています。でも、人ひとと人ひととのかかわりですから、相性あいしやうがあります。

私わたしが、遠友塾えんゆうじゅくの英語科えいごかのスタッフとなってから、今教科いまきょうかのミーティングで最初に言うのは、誰かのお気きに入りいになってください、です。

誰かのお気きに入りいになってください。お気に入りき いというところとちょっと違うちがかもしれません。でも、何なんという表現ひょうげんがふさわしいのか。誰かにとっての話はなしかけやすい人ひとになってください。誰かにとって心こころのハードルをちょびっとだけ下げられる人ひと。

4人もいれば、誰かだれが誰かだれのお気きに入りいになれるはず。話はなしかけやすい人ひと、わからないことがあった時とき、聞きやすい人ひと。

きっといろいろです。

あの中の、途切れそうな私わたしをつなぐしてくれたのは、まさにそういう出会いであでした。私わたしが勝手にお気きに入りいにしていたスタッフさん。ちょっと話はなしかけやすい人ひと、心こころのハードルを下げさげてくれた人ひと。

まだ誰だれが誰だれともわからない最初さいしよのころ、相手あいての名前なまえをおぼえるより先に、この人ひとになら話はなしかけられるかも、と感じかんじとして、それが途切れそうな私わたしを遠友塾えんゆうじゅくにつないでくれました。

だから今いま、スタッフになってい言っています。

誰かのお気きに入りいになってください。

もしかしたらぎりぎりの心こころも持もった人ひとがいるかもしれない。そうではなくても辛つらくなってしまう人ひとがいるかもしれない。でも、もしちょっとでも、「あ、この人ひとなら大丈夫」と思おもえるスタッフがいれば、繋つなぎとめられるかもしれない。

まだ名前も覚えていないけどその一人から始まって、
噛みあって、どこにも居続けることが出来なかった私は遠友塾を卒業しました。

私は対人関係に難を抱えて不適合の側に入ったので、自分で自分を認められません。

誰かが認めてくれても認められません。

ただ生きていることを許せない。

それでもいまは、そうあることに負い目やつらさを感じつつも、結構前向きです。

根っこの部分で変われなくても、私は変化しました。

出会いの力、だと、思います。

遠友塾で、インターネットで、学校で、出会いを重ねてとりあえずは生きていけそうな気がするくらいにはなりました。

いろんなものを抱えて、いろんな思いを抱いて遠友塾に来る人にも、きっといい出会いをしてほしい、そう思って私は言います。

誰かのお気に入りになってください。

誰かの心のハードルを少しだけ下げられる人に。

一年生として入学してきたときにはスタッフはもちろん、受講生同士でも知らない人ばかりです。そんな中でも私たちは、共に学ぶ受講生どうしの中から、初めて出会うスタッフの中から、無意識に誰かを選んでいきます。私は見つけました。

その出会いが**いいもの**になった**とき**に、きっと**何か**の**変化**が始まるのではないかと**思う**のです。

6) 釧路「くるかい」 吉田ヨシ子 (学習者)

「釧路自主夜間中学「くるかい」に通って」

「くるかい」に通うようになり**六年**が過ぎようとしています。国語の勉強の**嫌い**な**私**が、**孫**に取り残されると**思い**、勉強することにしました。そして**六年**、まだ**頑張**っています。

印象に残っている勉強がいくつかあります。宮沢賢治の「永訣の朝」ですが、**妹**を**思う**賢治の**心**が**痛い**程に**伝わり**感動しました。皆さんも読んでください。そして、**池田町**の**ワイン**作りが**50周年**を迎えた時に勉強しました。昭和**31年**、**38才**の**丸谷金保町**長が**町内**の**山野**に**実る**山ぶどうに**注目**したところから**始**まったそうです。希望と挫折の**繰**り返しで**池田町**の**ワイン**ができたようです。何事も**あきらめ**ない**事**が**大事**と**教**えられました。森鷗外、志賀直哉、芥川龍之介など、**沢山**の**作家**の**作品**を勉強しました。この勉強のお陰で、自分が**少し**賢くなったような**気分**になったこともあります。でも、**本当**は**次**から**次**と**忘**れてしまう**自分**もいました。

昨年**から**今年にかけて**北海道新聞**の「**卓上四季**」を使った勉強をしました。書き写し、朗読、漢字の練習など、**現在**の**世**の中の**流れ**や、**物**の**見**方、**考**え方について**一**所**懸**命に**考**えるようになり、**新聞**も**考**えて**読**むようになった**と思**います。只**漠**然と**時**間を**過**ごすことなく、**仲**間と**話**し合ひ、そして**先生**が**正**解を**やさ**しく**教**えてくれる。と**ても**う**れ**しい**時**間になります。**現在**は、**漢**字、**熟**語、**対**義語、**類**義語など**問**題集を使いながら、**少**しの**時**間を**や**り、**あ**との**時**間は**小**説

の一部を抜粋したコピーを先生が用意して下さり、それをもとにした課題があり、国語サークル7名で、わいわい話したり、真剣に考えたりしながら進んでいます。女性が多いので話したら止まりません。教えてくださる先生は、笑いながら待っていてくださる時もあります。人生の終盤で、こんなに楽しく、笑いのある勉強があったのかと思っています。これもひとえに、「くるかい」にたずさわっているボランティアスタッフの皆様のおかげと感謝で一杯です。そして仲間にも恵まれ、感謝です。これからも前に進みます。ありがとうございます。

7) 釧路「くるかい」 長野雅子（学習者）



早いもので、くるかいに通い始めてもう10年。月日は急ぎ足で過ぎ去るものです。私がくるかいを知ったのは、夫を亡くして3年程経った頃でした。子ども達も大きくなり、これから夫と2人で齢を重ねていこうと思っていました。でもそれは叶わぬことになったのです。自分は今から一体何をして残りの人生を生きていこうか。そんな事ばかり考えていました。それがある時ふと、「自分の人生を振り返ってみよう。子どもの頃から大人になるまでを日記の様に書いてみよう。」と思い立ったのです。

私は早くから親と死別して、他人に育ててもらっていました。そういう訳で、私は親の顔をもちろん覚えておらず、またどんな人だったか、母を知る人もひとりもいなかったのです。その頃を振り返るとき、自分の子どもも私の齢になった時、私の人生を知りたくなるかも知れないという思いもあり、書きつづけていました。

書き終えてから、高校3年生だった孫に、その文章を読んでもらいました。しかし、孫の感想は、「ばば、この文では人は感動しないと思うし、もう少し漢字を使った方がいいよ。」というものでした。その言葉に私は大きなショックを受けました。私は、中学は卒業しましたが、義父の仕事で転々として、中学1年の3学期から2年の2学期までは、貧しくて教科書を買う事が出来なく、勉強はほとんどしていません。学校へ行っても、よく分かりませんでした。新聞でくるとかいを知ったのは、丁度そんな時でした。「こういう所が出来たのか。自分も入っているのかな？」と、すぐに申し込みました。面接で、「何を学びたいですか？」と聞かれ、私は迷わず、「自分史を書きたいです。」と答えました。その時の面接のスタッフさんが私に、「長野さんですよね！」とおっしゃるのです。私はずっと以前、ある小中学校の送迎バスの車掌をしていた事がありますが、その時お世話になった学校の先生でした。思わぬ再会でした。そして先生は私の希望に配慮して下さいました。

そのお陰で、私は梅津先生の国語グループにも入れました。勉強のかたわら、自分史に取り組みました。一番大変だったのは梅津先生だったと思います。グループの勉強に加えて、私の手伝いもあったのですから。本当に助けられました。そして、約2年の期間をかけて、自分史が出来上がりました。梅津先生はじめ、ボランティアの方々の力もお借りして、ようやく完成したのです。それをグループ学習の時間、何人かに読んでもらいました。丁度その頃、文章の書き方の練習をしていた頃でしたので、感想文もお願いし、書いてもらいました。その一つ一つがとても嬉しいものでした。

人は、やりたいと思った時に行動する事が大切だと思った事を、今でも覚えていています。今は、色々な作家の作品の中から、人の心を汲みとる事や、漢字や言葉の使い方を学んでいます。くるとかいに出会えた事を、本当に感謝しております。これからも学んでいきたいと思っています。有難うございました。

はこだてえんゆうじゅく
8) 函館遠友塾

すどうきみこ じゅこうせい
須藤君子 (受講生)

えんゆうじゅく まな
「遠友塾での学び」

わたし せんご しょうわ ねん ななえちよう のうか う ちち わたし さい
私は、戦後の昭和23年、七飯町の農家に生まれました。父は私が5歳の
とき びょうし
時に病死しました。

しょうがっこう ねんせい とき ちち な きあと おんなでひとつ のうか つづ わたし
小学校4年生の時のことです。父亡き後、女手一つで農家を続け、私と3
さいとしうえ あに そだ はは のういつつ たお はんしんふ すい
歳年上の兄を育ててくれた母が脳溢血で倒れ、半身不随となってしましまし
た。それ以来、私は生活のため親に代わって農作業をすることとなりました。

いま わす こうけい ゆうがたはたけ いえ かえ さかみち
今でも忘れられない光景があります。夕方畑から家に帰る坂道で、もと
どうきゅうせい い あ ののじよ わら わたし つうがく
同級生と行き会いました。彼女たちは笑っていました。私は、通学できない
ことをばかにされたと感じ、目を伏せました。「どうして、私だけ学校に行
けないの。どうして、こんな苦勞をしているの。」と帰宅後、病床の母に泣き
さけ
叫んでしまいました。私は、田植えや種まき、草刈、収穫など慣れない
のうさぎよう はげ しゅうい ひとたち きょうりよく なん せいかつ
農作業に励みました。周囲の人達の協力もあり、何とか生活していくことは
できました。

がっこう には、がっこう せんせい むか き はは さと い
学校には、学校の先生が迎えに来たり、母に諭され、たまに行くことはあり
ましたが、勉強について行けず、足はだんだん学校から遠のきました。

がっこう かよ ともだち め がっこう いっさいかんが
学校に通う友達から目をそらし、いつしか学校のことは一切考えないよう
になりました。結局、私の学校生活は小学校4年生までとなってしまいました。
た。

さい はたけ はたら つづ はは な さい とき けっこん
18歳まで畑で働き続けました。母が亡くなり、19歳の時に結婚しまし
た。結婚1年後、主人は板金業で独立しました。けれど、私は漢字の読み書
き じゅうぶん せいきゅうしよづく し む てつづ しゅじん
きが十分にできず、請求書作りなどの事務手続きはできませんでした。主人
は、それでもいいよと優しく言うてくれました。その分、私は、現場作業の

手伝いに精を出しましたが、書く仕事は一切拒否していました。このとき学校に行かなかったこと、勉強してこなかったことを本当に後悔しました。

札幌に遠友塾があることは新聞を見て知っていましたが、遠いからとあきらめていました。函館にもこんな学校があればいいなと思っていた3年前の秋、函館に夜間中学ができることを新聞で知り、すぐに電話で申し込みました。とてもうれしかったです。

入学式は、とても緊張しました。授業について行けるだろうか。どんな仲間が集まるのだろうか。先生は怖くないだろうか。

入学式の一週間後に勉強が始まりました。漢字はわからない。字はへた。特に英語は、アルファベット、大文字、小文字、筆記体。まったくだめでした。周りを見るとみんなすらすら書いているように見えました。

遠友塾に入りたての頃は、何回も止めようかと思いました。でも、遠友塾の友達に「全部覚えなくても、一つでも覚えればいいのよ。」と言われ、気持ちが楽になりました。それから、授業が楽しくなり、休みたいと思うことが無くなりました。

2年半の勉強で最初分らなかったことが、だんだんと分るようになってきました。先生方の熱心な講義のおかげだと思っています。今は全ての教科が楽しいです。

私は来年の春、卒業となりますが、もう1年間遠友塾で勉強を頑張ってみようと思っています。遠友塾の先生またよろしくお願ひします。

(3年生時作成の卒業文集より)



れんらくさき さっぽろえんゆうじゆくじしゆ やかんちゆうがく じ む きょくちょう くらさわせいいち
連絡先：札幌遠友塾自主夜間中学 事務局 長 黒澤晴一

さっぽろしとよひらくつきさむにし じょう ちょうめ
〒062-0023 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-55-308

TEL/FAX: 011-827-8072 HP: <http://enyujuku.com>